



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

コロナと滑舌

高齢者歯科 診療科長・教授 佐藤 裕二

コロナの蔓延により、人と接する機会が減り、会話することも減りました。丸一日一言もしゃべらないこともあるでしょう。さらに、会話の際にも小さな声が推奨されています。そのため、お口の機能の一つである滑舌（発音や発声がはっきりと滑らかなこと）が低下したと感じます。

口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体の衰え（フレイル）の一つである「オーラルフレイル」の評価が2018年から医療保険に導入されました（滑舌、口の汚れ、口腔乾燥、咬む力、かみ砕く能力、舌の力、飲み込む能力など）。滑舌の検査は、「パパパ」「タタタ」「カカカ」の3種類を5秒間に何回発声できるかで、30回未満だと滑舌低下と診断します。

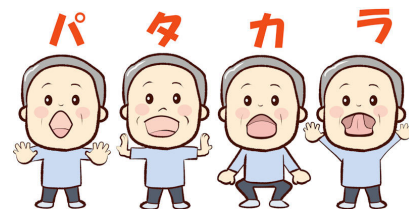
当院で、コロナ蔓延前（2020年4月以前）に142名、コロナ蔓延後に50名の初診患者さんの口腔機能の検査を行いました。その結果、前後で、患者さんの年齢はほぼ同じであるにもかかわらず、滑舌低下の方は66%から79%に増加しました。

滑舌低下の患者さんには、「パタカラ」という言葉をはっきりと早くしゃべるトレーニングを1日に1回行うように指導しています。半年後の再検査では、その効果が現れているようです。



簡単なセルフチェックを紹介します。指折りながら、「パタカ」を10回発音して、その時間をスマホのストップウォッチで計ります。5秒以上の場合は、滑舌低下の可能性があります。当院で、口腔機能低下症の検査を行ってはいかがでしょうか。検査結果から「お口年齢」を計算し、簡単なリハビリを指導しています。

日常生活が取り戻せ、楽しく歓談できる日が戻るまで、滑舌をはじめとしたお口の機能を保っておきたいものです。



- P1 巻頭言 コロナと滑舌
- P2 診療科紹介 高齢者歯科
- P3 部署紹介 薬局
- P4 患者さんからのご意見、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：高齢者歯科

高齢者歯科 准教授 古屋 純一

高齢者歯科では主にご高齢の方（65歳以上）を担当しております。高齢期のお口の問題で最も多いのは「食」の問題です。ところが年齢を重ねると、食の問題には、むし歯や入れ歯などのお口の“かたち”だけではなく、噛む力、口の動き、唾液、咀嚼・嚥下（噛む・飲み込む）などお口の“はたらき”にも原因があることがあります。このような高齢期に生じる複合的なお口の問題のことを“オーラルフレイル”と言います。

オーラルフレイルは、歯科で診断する“口腔機能低下症”という病気もあり、食事や栄養に問題が生じた結果、全身のフレイル（虚弱）や要介護になりやすい可能性が考えられています。2022年4月からは50歳以上の方が口腔機能検査の対象になりましたので、積極的に検査を受けてお口の問題に自分事として取り組むことが推奨されています。オーラルフレイルや口腔機能低下症の目標は、元気にいつまでも自分のお口で食べて、フレイル・要介護を予防することです。高齢者歯科では内科クリニックとも連携しておりますの

で、お口と全身から患者さんのフレイル対策をお手伝い致します。

また、歯科病院の患者さんで近隣にお住まいの方が要介護になり通院困難になった場合には、地域の歯科医院と連携しながら、訪問診療によって食事やお口の問題に対応できることもあります。義歯、噛む・飲み込むの問題など、一度ご相談下さい。当科では、日本老年歯科医学会、日本補綴歯科学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会の専門医・認定医を中心に他の診療科とも連携して治療にあたります。



訪問診療での義歯治療



オーラルフレイル・口腔機能低下症の検査機器



高齢者歯科診療メンバー

部署紹介：薬局

薬局 薬局長（薬学部 病院薬剤学講座 准教授）須永 登美子

昭和大学歯科病院の薬局では、パートを含め7名の薬剤師が勤務しており、外来や入院患者さんの調剤、手術室における薬品管理、入院予定の患者さんの内服薬の確認をはじめ、入院患者さんへの服薬説明などを中心に、薬の専門家としての知識を活かして、医療チームの一員として患者さんがより良い医療が受けられるよう日々研鑽しております。

多くの外来患者さんは、病院内で働いている薬剤師の姿を目にすることは少ないかもしれませんが、病棟薬剤師は、入院中の全ての患者さんの薬物治療に携わっています。病棟薬剤師は、入院患者さんの常用薬の確認、入院中に使用する薬の服薬説明、使用している薬の定期的な副作用の有無の確認、退院時の服薬説明だけでなく、常用薬と病院で処方された薬の飲み合わせが悪くないか、重複していないか、患者さんの体重から計算して適切なお薬の量なのか、患者さんの状態に応じた剤形(錠剤、散剤、坐剤など)が選択されているのか、などを考えて歯科医師や看護師と話し合いながら、チーム医療を実践しています。特に、抗菌薬や鎮痛薬にアレルギー歴のある患者さんには、どのお薬を選択すること

が可能か、歯科医師へ情報提供し、患者さんにとって最適な薬物治療を提供できるよう、日々取り組んでいます。

近年、ポリファーマシー問題が注目されています。ポリファーマシーとは、複数を意味する「ポリ」、調剤を意味する「ファーマシー」を合わせた言葉ですが、これは単に服用する薬剤が多いことではなく、多剤服用の中でも害をなすものが特にポリファーマシーと呼ばれています。複数の医療機関を受診されて、それぞれお薬が処方された場合、お薬手帳から同じ薬が処方されていないかどうか確認することができます。また、飲み合わせの悪い場合も気づくことができます。皆さん、お薬手帳を1人1冊お持ちください。そして、医療機関に受診される際には、お薬手帳をお持ちになり、主治医あるいは薬剤師にご提示ください。災害時にも常用薬の代替薬がすぐにわかりますので、保険証などと合わせて保管することをお勧めします。



病棟でのチーム医療（薬剤師、看護師、歯科医師）の様子



薬局スタッフの集合写真

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>音楽がBGMで流れているのですが、あまり暗くてよくないです。Jazzばかりなので、いやしとか、明るくなれる様な、音楽を流して、リラックス出来るようにして下さい。</p>	<p>この度は、貴重なご意見ありがとうございます。 当院内のBGMは外部のチャンネルから流れており、当院の方から直接選曲をする事ができません。異なったジャンルのチャンネルを割振り、同系統の曲が連日、また午前、午後に連続して流れないようにしています。しかし、毎週同じチャンネルを流しているため、来院される曜日、時間によってジャンルが偏ってしまいます。 今回いただいたご意見を踏まえて、数ヶ月に一度ローテーションを行うことを検討しております。 また、スロージャズのチャンネルを別ジャンルのものに変更する予定ですので、お楽しみいただければ幸いです。今後も院内環境の改善に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。 (患者サービス向上委員会)</p>
<p>診察時にフルネームで呼ばれたくないです。 また、会計時にフルネームを言わなければいけないのも気になります。個人情報なので、やめてほしいです。</p>	<p>この度は、貴重なご意見ありがとうございます。 当院では、ご本人確認のため、診察、検査、処置、エックス線撮影などの前に、フルネームでお名前とお誕生日(月日)の聞き取り確認をさせていただいております。患者さんの安全を守るために、重要なことですので、ご理解、ご協力の程、お願い申し上げます。 (患者サービス向上委員会)</p>

編集後記

魚介類に寄生する「アニサキス」による食中毒が、全国で相次いで発生しているそうです。アニサキスは、体長およそ2~3cmの寄生虫で、寄生している魚介類を食べた場合、激しい腹痛や吐き気に襲われるそうです。対策として「新鮮な魚を選び、速やかに内臓を取り除く」、「冷凍(-20℃で24時間以上)」、「加熱(70℃以上または60℃なら1分)」などが挙げられます。

食中毒に注意して、スタミナをつけて梅雨を乗り切りましょう。

(H.S)

